

# 青少年の自立を 支える会 通信

第9号 平成11年4月30日

発行/青少年の自立を支える会  
所在地/宇都宮市南大通り4-2-18  
☎・FAX 028(651)0161  
発行責任者/伊達悦子  
編集責任者/福田雅章

## 『星の家』の子どもたち

青少年の自立を支える会 事務局長 福田雅章

### 『あんな子どもたちのために私たちはがんばるの?』

先日の「星の家まつり」のとき、何人かのボランティアの人が発した言葉です。まつり当日、星の家に住む女の子2人が手伝いに来ました。2人の格好は、茶髪、ピアス、厚化粧、そして露出部分の多い服装、だれが見てもヤンキーな娘です。一般的な感情として「あんな子どもたちのために私たちはがんばるの?」という言葉は、当然のことかも知れません。

それでは、星の家の子どもたちをどのような子である（でなくてはならない）と考えているのでしょうか。「心根がしっかりして、自立するために黙々とがんばり、そして支援してくれる人たちへの感謝の気持ちを持ち、周囲の期待に懸命に応えようとする子」、そんな「いい子」を想像しているのかも知れません。

でも、そんな子どもたちならば、星の家を利用するまでもなく、家族や児童養護施設、里親のもとから十分に自立していけるのです。

### 『自己感が希薄な子どもたち』

星の家の子どもたちに共通していること、それは「自己感の希薄さ」です。子どもは、その心（自我）の発達の第一段階において、その後の人間形成にとって、最も重要な「基本的信頼」を身につけなければなりません。これは、自分を無条件に愛し、受け入れてくれる大人との間に形成されるもので、親、それにかわる施設職員や里親の方が、「基本的信頼」を結ぶ対象となります。

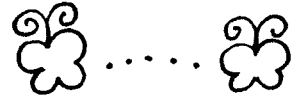
しかし、星の家を利用する子どもたちは、特定の大人との間に「基本的信頼」が形成されないまま、愛着の欲求や承認の欲求が満たされないまま成長していきますから、自分の存在そのものに自信を持っていません。このように自己感の希薄な子どもたちは、「自分は無力だ、劣等だ」と自己に対して否定的なイメージを持っていますから、常に周囲に対して虚勢を張っていなければ、希薄な自己が保てません。

また、自分の置かれている立場や将来を見据えて、今、何をすべきなのかという認識も欠けていますから、自分自身の行動を省みながら、よりよく生きようという意欲は持ちにくく、刹那的、享乐的な生活を送ることになりがちです。星の家の門をたたく子どもたちの多くは、そんな子どもたちなのです。

### 『信頼関係を形成し、自己を取り戻していく場、それが星の家です。』

星の家では、大きくなってしまった子どもたちとのつきあいは、改めて信頼関係を作り上げていくというところからスタートします。「自分はどうでもいい存在ではなかったんだ」という感覚が、共に生活するなかで、次第に大きくなっていき、そして少しずつ自己を取り戻していくと考えています。

しかし、この道のりは決して平坦ではなく、険しいものがあります。子どもは、大人から裏切られた数だけ大人を裏切ると言われています。ホーム長である星さん夫婦は、裏切られても裏切られても、いつの日か信頼関係ができることを信じ、子どもとの関わりを続けていかなければなりません。わたしたちは、星さん夫婦とともに子どもたちの自立を考え、できるかぎりの支援をしていきたいと思っています。



# みんなのパワーが<sup>が</sup>集結!!



## 第一回『星の家まつり』盛大に開催！



去る4月4日（日）に宇都宮市総合コミュニティーセンターで開催された『星の家まつり』は、肌寒い日にもかかわらず、多くの来場者を迎えることができ、目標を大きく越える約700,000円の収益を上げることができました。

何ヵ月も前から準備を進めてきた実行委員会の仲間、当日、声をからし運営を手伝ってくれた仲間たちひとりひとりの力が、こんな形になって成果を収められたことは、とても大きな意味を持つものであり、支える会の仲間の交流の場としても大きな役割を果たしたといえます。

当日の各コーナーからは、次のような反省点などがあげられました。

バザール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品物、ボランティアとも充実し大人気となった。来場者の声も、品物が豊富でいいものがたくさんあった、売り子さんが多くて買いやすかった、気持ち良く買うことができた、など全般的に好評だった。</li> <li>・品物の値段は、ボランティア、来場者からも『安い!』との声が多かった。</li> </ul>
牛串	<p>予定を越える売り上げがあった。値段と量などについて、検討が必要かと思う。会場からは、塩味のものや柔らかいものへの要望があった。</p>
みそおでん	<p>事前準備の段階から多くの人の協力をいただいた。当日は、調理室と会場が離れていたため、鍋を運ぶのが大変だった。持ち帰り用のパックにすると売れ行きが上がった。</p>
焼きそば	<p>事前準備での小・中・高校生の協力が大きかった。値段、量の工夫が必要か。</p>
フライドポテト	<p>予定どおり完売。揚げたてのもの提供することに心掛けた。</p>
パン	<p>おいしいパンだと大好評。子どもたちがカゴをかわいくデコレーションして、呼び込みも工夫して売っていた。</p>
わたあめ	<p>わたあめの他に駄菓子を揃えて『くじ引き』や『ボール当てゲーム』などの子ども向けのコーナーを作り、楽しさをメインにするとよいのではないか。</p>
和菓子	<p>小学生のボランティアが自分で工夫して売り込みをしていた。ボランティアの子どもたちは、それぞれに人のために役立つことを感じたようだ。</p>
ジュース・コーヒー	<p>当日は、寒い日となってしまい残念だった。種類は豊富だったが、コーヒー+ケーキなどの売り方の工夫もあるとよい。</p>
鉢花	<p>客数に対する売り上げが大きかった。花の種類を多くできるとよい。</p>
アトラクション (ホドビルダー)	<p>アトラクションとメイン会場は同じでよかったのではないかな。 「親子で楽しめる人形劇」とPRしたが、内容が小さな子どもには理解できなかったようである。また、開演時間についてポスター等に書かれていなかったのでお知らせする必要がある。</p>

はじめての『星の家』まつりの開催でしたが、バザー品の値付けやチラシの配付などを手伝ってくれた星の家の子どもたち、事前準備から当日の運営まで手伝ってくれた多く仲間、アトラクションで協力してくれた「くくつ」のみなさん、その他、バザー品の寄付やPR等にご協力いただいた多くの方々のおかげで、イベントを終了することができました。

『星の家』の支援を目的としたこのイベントで、当日のボランティアは106名を数え、『星の家』に関わるボランティアのそれぞれの顔が見えたことは大きな収穫だったとする声や今まで個人で関わっていたものが、横の連帯が芽生えたという意見が多く聞かれたことは、子どもたちをみんなで支えていこうとする気持ちを形として表すことができた一つの結果と言えるのではないのでしょうか。

当日は、食品を扱った模擬店も多かったのですが、食中毒や火傷、ケガもなく、参加した仲間からは、自分のできるほんの少しのことが、人のために役立つことを改めて感じたとか子どもたちのがんばりを見ていてエネルギーをもらうことができたなど、得るものも大きかったようです。

イベントの運営では、実行委員会体制や全体的な見直しのほか、会員やボランティア以外の来場者が少なかったことや来場者の年齢層が高かったことから、子どもや親子連れで来て楽しめるようなコーナーを設け、会員以外への宣伝の方法に工夫するなどの検討が必要だと感じました。

### 第一回『星の家まつり』 収支決算書

#### □ 収入

項 目	金 額	備 考
1 バザー収入	621,530 円	食品、食器、手作り品、日用品、衣類、鉢花、切り花、野菜、おもちゃ
2 模擬店収入	296,599	牛串、みそおでん、焼きそば、フライドポテト、わたあめ、和菓子、缶入コーヒー、パン
3 募金、寄付金収入	51,259	外回り 会場・受付・各売場の募金及び寄付
4 その他収入	6,630	飲み物買い取り
計	976,018	

#### □ 支出

項 目	金 額	備 考
1 本部経費	69,579 円	会場使用料、事務用品、発電機賃借料 等
2 バザー関係経費	6,324	シート、ビニール袋 等
3 模擬店関係経費	197,240	ガスコンロ、食器類等経費
計	273,143	

収入 976,018 円 - 支出 273,143 円 =

収益 702,875 円

ご協力、ありがとうございました！！



楽しいできごと ～ 『星の家まつり』から見たこと ～

“私たちは、そのとき気がついてみると『星の家まつり』の準備に手を染めていたのです”  
星の家まつりは、大変多くの人々の参加によって成り立っています。もちろん、その参加の仕方を見ると、企画・立案・運営に携わった人々、バザーに貴重な品物を提供してくれた人々、バザーの手作りの品物を作ってくれた人々、ピラを作った人々、たくさんの品物を保管してくれた人々、品物を運び出してくれた人々、トラックの運転・手配を申し出てくれた人々、模擬店の準備・売り子として携わった人々、受付をしてくれた人々、楽しい人形劇でまつりに花を添えてくれた人々、そして当日まつりに参加してくれたすべての人々、というように多様です。

参加の動機について、私自身のことを振り返ってみると（これは多くの参加者が感じているのではないのでしょうか）、何か固い決意や使命感に駆り出されて参加したのではなく、“そこに愉しそうな雰囲気や漂っていた” “人を引き込む熱気が漂っていて、つい引き込まれた” ということなのです。ある人は、“一時の夢”と表現されていました。

私たちの社会は今、閉塞的な状況にあると言われています。しかし、星の家まつりを通して見たように、ひとりひとりの顔が見え、人のやさしさを実感できる、新しい人と人との結びつき（仲間）を作り合える活動には、私たちの求めているもう一つの生き方を垣間見ることができま

す。もちろんそこには閉塞的な気分は微塵もありません。  
私は、青少年の自立を支える会に手を染め続けることを決意したところです。

加藤悦雄

平成11年度「青少年の自立を支える会」総会及び研修会の開催について

日時 / 平成11年5月8日(土) 研修会 13:00 ~ 総会 15:40 ~

場所 / 宇都宮市文化会館 第一会議室

内容 / [研修会] 13:15 ~ 15:20

基調講演『自立援助ホームの基礎知識』

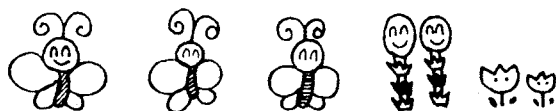
講師 全国自立援助ホーム連絡協議会代表  
えんどうホーム 施設長 遠藤 浩 氏

対談 『自立援助ホームの今日的課題』

えんどうホーム 施設長 遠藤 浩 氏  
『星の家』 施設長 星 俊彦 氏

[総会] 15:40 ~ 16:40

議題 ◇平成11年度定期総会 ———— 平成10年度事業報告・収支決算について  
◇NPO法人設立総会 ———— 定款、平成11年度事業計画・収支予算、  
役員を選任、『星の家』経過報告及び  
平成11年度ケア方針 等



支援の輪 (1999. 3.31現在)

□ 会員数 565 人  
□ 会費・寄附金 5,560,238 円



青少年の自立を支える会 事務局

〒321-0963 宇都宮市南大通り 4-2-13  
自立援助ホーム「星の家」内  
TEL・FAX 028(651)0161

★ 会員募集中! です。1口5,000円。【郵便番号/宇都宮 00140-3-366972 名義/青少年の自立を支える会】  
★ スタッフ・ボランティア募集中! どんなことでもお手伝いいただける方、お待ちしております。